

「茶道を学んで」

2年 ICA 組 女子

西高に入学して早二年が経ちました。私は両親の双方の祖母がお茶の先生で、母もお茶の免許を持っているので茶道はわりと身近なものでしたが、正式に習ったことはありませんでした。しかし二年間、二週間に一回の授業を受けることで自信を持って「私は茶道経験者です。」と言えるくらいになれたと思います。最初はお茶になかなか泡が立たずに苦戦しましたが、最後の授業の時には立派な泡を立てることが出来ました。授業を受けていくごとにお茶がおいしくなっていましたし、「お茶の心」が益々分かるようになりました。

私は以前、小学校四年生から中学校一年生の途中まで父の仕事の都合でフランスに住んでいました。現地では私が日本人ということで、外国人の方によく日本の茶道や華道、書道について尋ねられることがありましたが、当時私は書道しか習ったことがなく、いつか機会があれば茶道も習ってみたいなあと思っていたので本当に良い経験となりました。

高校一年生時には学校からニュージーランドへ短期留学をする機会があり、ホストファミリーや現地の人と茶道の話題がでた際には胸を張って答えることが出来たので良い勉強になったと思いました。

お茶を学ぶことで、幅広い年齢層の人との会話がはずみ、海外で初めて知り合った人とも仲を深めることが出来ました。そして何と言っても日本人として日本の「和の心」の素晴らしさを知ることが出来ました。日本の「栄枯盛衰」のような、儚さに対する美を身をもって感じる事ができました。毎回、授業のたびに変わる生け花や掛け軸も見ることで、季節の草花や掛け軸を知ることができました。

茶道を通して、お茶を超えた様々なことを学べたと思います。事実この二年間だけで多くの場面で茶道の経験が役に立ちました。せっかく習ったので今後にも生かしていきたいと思います。

「茶道を学んで」

2年 ICB組 女子

この二年間茶道を学んで、最初は茶道なんてしたことがほとんどないし、ずっと正座で座っておくことなんてできるかな、やはり茶道のような伝統的なものになると先生もすごく厳しそうで怖いのかなと思っていたけれど、先生はそんな想像よりも優しい方で親しみやすく本当に自分のおばあさんみたいな雰囲気を持っている先生だったので安心しました。足も慣れないうちはすごくしびれて辛かったけれど、この二年生の終盤になってくると平気になってきたので、今後どこかのお家にお邪魔する時などに役立つかなと思います。毎回授業に行くたびにお花や掛け軸が替わっていて今日はどんなお花かなと楽しみにしていました。生け花などもしてみたいなと思います。あとは何より毎回のお菓子がすごく楽しみでした。普段では食べられない様な和菓子を食することができたのが何よりも嬉しかったです。お菓子は、すごく可愛らしいものばかりで見る楽しみも大きかったです。

そして、大徳寺では初めての座禅を体験し、何だか心が引きしまった様な気がしました。また、運良く何十年間に一度しかしないお寺の屋根の修理をしているところも見せてもらえて感動しました。職人さん達もこんな歴史のあるお寺の修理に関わることができてすごいなと思いました。もう一つ、お茶碗の絵付けができたことも他にはない良い体験だと思います。自分用の茶碗を作ることができたので、もしまたどこかで茶道をするような事があった時には使いたいです。こうして思い出してみるとやはりいい経験ができたと思うし、茶道の授業がなくなるのは悲しいです。うちの祖母がお茶の先生をしているのでまた茶道の心を忘れないためにも続けていきたいです。この茶道の授業を通して日本の伝統に触れることができたので、これからも関心を持ち続けたいと思います。そして、人間的にも成長できたと思うので、茶道で学んだ立居振舞が今後も役立つと嬉しいです。